



青森総合卸センターニュース

編集・発行 協同組合青森総合卸センター 〒030-0131 青森市問屋町 2丁目17-3 ☎017-738-4711 FAX017-738-7323
URL http://www.tonyamachi.com E-mail info@tonyamachi.com 発行/平成25年10月31日



公共施設等視察会

最後に、土手町コミュニティパークを運営する株アップルコミュニケーションズの松本マネージャーが、同所を案内しながら施設の概要を説明した。
同施設は貸しスペースや青

企画情報委員会(佐治委員長)では、9月26日(木)、官民一体となり魅力ある街づくりへ積極的に取り組む弘前市中心市街地を視察する公共施設等視察会を実施し、組合員ほか15名が参加した。
最初に視察したのは、9月20日に全館開業を迎えたばかりの複合商業施設「HIRO RO(ヒロロ)」。同施設は、地元経済界や商工会議所が出資して設立した「株式会社マイトウンひろさき」が運営。施設は地下1階〜地上6階建て、食品スーパーのほか、家電量販店、アパレル、飲食店、輸入食品店などが出店。

3階は弘前市が新たに設置した駅前分庁舎「ヒロロスクエア」となり、NPO団体などの民間11団体と弘前市が連携して運営。子育て支援センターや子供向け図書館が併設されている。同施設では休日でも住民票等の交付ができるほか、県の施設であるバスポートセンターも誘致し、こちらも休日に発券業務を行うなど利便性が高い。
ヒロロは、核テナントに依存せずテナントMIXにより共存共栄を図り、運営経費は旧ジョypal時と比べて大幅に圧縮している。また、行政機能を強化し商業施設部分は

街の活性化に積極的に取り組む弘前市中心市街地を視察 公共施設等視察会

コンパクトに適正配置するなどの取り組みで、大人から子供まで、目的が違っても訪れる市民の生活の一部となる施設を目指している。
続いて訪れたのが、土手町に昨年12月にオープンした「土手町コミュニティパーク」。同所では、土手町商店街振興組合の宮川事務局長より同商店街の取り組みについて説明を受けた。
下土手町商店街では、「ランチタイム(午前11時〜午後2時)駐車場無料化」や「学生や主婦等の一般市民と連携したイベント」など、商業施設の開発に頼らない新たな賑わいの創出へ取り組み、空き店舗の解消に努めている。
ランチタイム駐車場無料化は、3時間の無料時間帯があるにもかかわらず、利用頻度アップや滞在時間の延長などで駐車場の売上が1.3倍に増え、また、歩行者数が大幅に増加したことにより、飲食店等の新規出店に繋がり、街の活性化に大きな効果をあげている。



親子で仲良く果物狩り



フルーツ片手に記念撮影

同事業担当委員会である熊谷労務対策委員長の挨拶の後、観光りんご園の川村さんより、園内を移動しながら果物の収穫方法等の説明を受けた。当日は、りんごの他に桃や梨、ネクタリンに栗など、

数多くの種類の果物が食べ頃を迎えており、参加者は美味しそうな物を厳選して収穫。新鮮でジュシーなフルーツを堪能した。
また、参加者を楽しませる余興として「400gの桃を探せ」と題したゲームも開催。ほとんどの参加者が350g前後となる中、田野大地くん(7歳)が402.5gで見事優勝を飾った。
昼食には青森県産品にこだわったパーベキューを味わい、参加者はお腹いっぱい顔をはこぼせた。

もぎたての旬のフルーツを満喫

組合では組合員従業員に対する福利厚生事業の充実を図るため、新たなレクリエーションとしてフルーツバイキングを9月22日(日)に開催した。青森市幸畑にある青森観光りんご園で開催した同事業には、組合員従業員とその家族33名が参加した。
同事業担当委員会である熊谷労務対策委員長の挨拶の後、観光りんご園の川村さんより、園内を移動しながら果物の収穫方法等の説明を受けた。当日は、りんごの他に桃や梨、ネクタリンに栗など、

組合管理施設解体等工事など
承認
第5回理事会

組合管理施設解体並びに共同駐車場整備工事や組合員の新規加入等を審議する第5回理事会が9月24日(火)、問屋町会館で開かれ、審議の結果、全て原案どおり承認された。

また事務局からは問屋町防災訓練や第2回婚活パーティー等について報告を行った。主な案件審議は次のとおり。案件一・事業委員会からの意見について
組合管理施設解体等工事や共同倉庫鉄骨塗装工事の実施が承認された。

案件二・労務対策委員会からの意見について
恒例のボウリング大会やハロウィンパーティーの開催が承認された

案件三・組合施設の利用並びに新規組合員加入承認について
レストランフロリアをテナント利用する(Sokka)の組合への加入が承認された。

案件四・青森卸センター(株)の株式引受について
案件五・つなぎ資金の借換について
案件六・新年会の開催について
案件七・平成25年度第6回理事会の日程等について

第10回会員交流会

青森問屋町経営同友会

青森問屋町経営同友会の会員交流会が、9月13日(金)にレストランフロリアで開催された。今回で10回目を数える交流会には同会会員等19名が参加した。

同交流会では、会員企業の概要や取扱商品・サービスを紹介し、会員間の相互理解を深めており、今回は、(株)金竹成家の成家社長、下山営業課長、神営業主任とミリオン(株)の柴田専務が発表を行った。発表後の懇親会でも商品への質問などで大いに盛り上がり、会員同士親交を深めた。



同友会会員交流会

組合施設解体等工事着工

組合では組合管理施設のうち、2つの物件の解体工事に着手した。

同物件は建物の老朽化が著しく、維持管理に多大な費用がかかるが見込まれ、1件はアスベストが使用されているなど、建物の維持・使用

が困難になっていた。また、来年、組合員の新規加入予定があり、それによる駐車場不足も懸念されており、建物を解体し、共同駐車場として整備することとした。
工事は10月初めから12月いっぱいまでを予定しており、工事に伴う交通規制などへの協力をお願いする。



工事箇所図

貸倒引当金等の処理の仕方について学ぶ

第1回税務研修会

講師に青森税務署の徳光審理専門官を招いた、第1回税務研修会が9月13日(金)、問屋町会館で開かれた。

主な研修内容は次のとおり
▽貸倒引当金の繰入処理について

1. 貸倒引当金とは
売掛金や貸付金等の金銭債権に対する将来の取立不能見込額を見積ったもので、税法で定める繰入限度額に達するまでの金額を損金算入することができる。
2. 繰入限度額の計算方法
個別評価金銭債権(債権の

一部に貸倒損失が見込まれる金銭債権)は事由によって4つの類型に区分され、それぞれ損失の見込額の計算方法が定められており、債務者ごと繰入限度額を計算する。

一括評価金銭債権(個別評価金銭債権を除いた金銭債権)に係る繰入限度は、期末の一括評価金銭債権の帳簿価額に、過去3年間の貸倒実績率を乗じて計算する。また、中小法人等については、貸倒実績率による計算に代えて、業種の区分に応じて定められた法定繰入率により計算することが認められている。

3. 貸倒引当金のポイント
平成24年4月から貸倒引当金繰入額の損金算入ができる

法人が、中小法人、銀行・保険会社及び一定の金銭債権を有する法人に限定された。また、個別債権と一括債権を通算で計算してはならない。

▽貸倒損失の処理について

1. 貸倒損失とは
売掛金や貸付金等の金銭債権が、倒産等により回収できなくなった損失のこと。法的に債権が消滅した場合や、回収不能な債権がある場合は、その金額を貸倒損失として計上し、債権金額から控除しなければならぬ。

2. 貸倒損失のポイント
①法人の有する金銭債権について貸倒れが生じた場合には、その債権の額は貸倒損失として、貸倒れとなった日の

属する事業年度の損金の額に算入される。
②債務者の資産状況、支払能力等からみて全額が回収できないことが明らかになった場合には、その明らかにした事業年度において、貸倒れとして損金経理することができ

る。この場合、金銭債権に担保物があるときは、その担保物を処分した後でなければ貸倒れとして損金経理はできない。
③会社更生法等の適用を受け、債権の切捨てが決定された場合等の法的貸倒れは、損金経理が要件となっていない。例えば、更生計画の認可決定が期末までにあり、その通知が遅れ、確定決算で損金経理ができなかった場合にお

- ④債権放棄(債務免除)は原則として書面によるものとされているが、必ずしも公正証書の公証力のあるものではない。なお、債務者の資産状況及び支払能力等からして、債権回収が可能と認められる場合や時期尚早と認められる場合には、債務者に対する贈与として寄附金等として取り扱われる場合もあるため注意が必要である。
- ⑤貸倒損失となった金銭債権が消費税の課税取引である売上に係る売掛金等である場合において、消費税等の申告に当たっては、控除税額の対象となる。

住宅設備機器・冷暖房機器
住宅関連商品総合卸商社

株式会社 金辰商事

本社 青森市第二問屋町3-13 TEL 729-3111
支店 仙台 営業所 弘前・盛岡・八戸

フードビジネスの明日を切り開く

食品総合商社



昭産商事 青森支店

青森市問屋町2丁目15-9
電話 (017) 738-4551

日本経済は経済「マネー」情報のグローバル化・情報化のなかで、新たな成長の道を模索していかなくてはならない。そのひとつが、アベノミクス、TPP、消費税引き上げといった昨今の諸相ではないかと思う。高い技術力で付加価値の高い製品を作り、それを輸出して外貨を稼ぎ、生活を必要とするエネルギー、食料を輸入しながら経済成長を果

『経済雑感シリーズ』第27弾は、青森中央学院大学の高山教授にご寄稿いただいた。

10月7日(日)、問屋町緑のボランティア隊による団地内美化活動が行われ、隊員とその家族22名が参加した。



問屋町緑のボランティア隊

緑のボランティア隊
街路樹下枝刈り作業等

『経済雑感 第五十一回』
青森中央学院大学経営法学部
教授 高山 貢

「青森県の生きたる道」

たした日本の経済モデルが大震災、ユーロ危機、原油高、原発事故により、大きく揺らいでいる。

9月
2日▽県中央会地区別懇談会
3日▽問屋町経営同友会第3回役員会
5日▽商団連事務局局長会議
6日▽第2回問屋町婚活パーティ(16日)

10月
7日▽青森公立大学開学20周年記念講演会
8日▽第2回緑のボランティア隊
10日▽第2回事業委員会
12日▽第6回合同清掃
13日▽第1回税務研修会
17日▽金融審査会
18日▽第3回労務対策委員会
19日▽県中小企業組合士会通常総会・懇親会
22日▽フルーツバイキング
24日▽第5回理事会
25日▽第3回問屋町従業員モ

11月
11日▽顧客の心をギュッとつかむ営業研修(発想法編)
19日▽アイデアの作り方講座
24日▽総務管理の基礎の基礎(1日目)
26日▽総務管理の基礎の基礎(2日目)

26日▽公共施設等視察会
▽青森商工会議所業務流通商業部会総会

業務報告

…主要事項…

青森県も例外ではない。青森県は農林水産品を県外へ移出して、県外・海外からエネルギー、消費財を輸入する経済システムである。高付加価値の農林水産品の生産はなかなか難しく、エネルギー価格は最近の円安で高止まり、県外へ流出するマネーは年々増大するばかりである。流出額をカバーする農産品の移輸出は「攻めの農林水産業」で増加しているが、移入に依存する経済構造は簡単に修正できない。さらに、青森県特有のエネルギー事情もある。2012年の家



青森中央学院大学経営法学部教授 高山 貢氏

計調査年報(家計収支偏)によると、青森県(対象地域:青森市)の年間灯油消費量は1,277k1、支出金額は10万9千円と全国トップの消費量、支出金額となる。我々の暮らしは石油ストーブをはじめ、風呂、融雪等、灯油がなければ成り立たない生活である。

26日▽公共施設等視察会
▽青森商工会議所業務流通商業部会総会

26日▽公共施設等視察会
▽青森商工会議所業務流通商業部会総会

26日▽公共施設等視察会
▽青森商工会議所業務流通商業部会総会

26日▽公共施設等視察会
▽青森商工会議所業務流通商業部会総会

最近のベストセラー、里山資本主義によると「生きていくのに必要なのは水と食料と燃料、おカネはそれを手に入

青森県は、食料自給率(カロリーベース)が100を超え、農業産出額が全国第8位、風力発電、バイオマスなど、豊富なエネルギー資源に恵まれている。森林資源も豊富に存在する。

れる一つの手段に過ぎない」と主張する。里山には井戸や湧水を使い、薪を燃やした生活が存在する。里山資本主義はマネー資本主義を捨て、おカネに依存しないサブシステムを構築しようとする考え方である。

大震災、大津波、甚大な風水害が相次ぎ、社会全体に想定外、予想外の出来事が起き、日本全体に「不安心理」が広がっている。この不安を払拭しないことには、経済だけでなく日本の社会そのものを持続させることは難しいのではない

か。里山資本主義は保険であり、リスクマネージメントと考えれば合点がいく。都会にはない、青森の資源を活かしていく生活スタイルが求められる。

間屋町
ビジネススクール

間屋町
ビジネススクール

VIDEO DVD-RW

- キズ、ゴロに100倍強い =スーパーハードコート
- チリ、ホコリに強い =帯電防止機能
- 紫外線に3倍強い =UVガード付き
- (DVD-R/+R)

TDK代理店

オリエント商会株式会社

青森市第二問屋町三丁目6-8 電話 739-0163(代)

宇部三菱セメント(株)特約店

株式会社 青森カイハツセメント

本社 青森市第二問屋町三丁目6番12号
電話(017)739-2436(代)

八戸支店 むつ営業所
五所川原営業所

旅行や出張にうれしい宿泊パックのお申込みは

共和トラベル株式会社

青森市東造道二丁目3番14号
TEL 017(736)2266
FAX 017(736)5522

青森県知事登録第3-83号 総合旅行業務取扱管理者 成田浩二

営業品目

- パンフレット・ポスター・チラシ・ダイレクトメール・カタログ・カレンダー等
- チケット・商品券・証券等
- プログラム・記念誌・報告書・資料集・新聞・社内報等
- コンピューター用帳票類・一般事務用帳票類等
- 各種封筒・案内状・挨拶状・名刺等
- オンデマンド印刷等
- Win・Mac各種データ作成・変換等

総合印刷 株式会社 誠五社

〒030-0113 青森市第二問屋町三丁目3番18号
TEL(017)729-1611(代)
FAX(017)729-1188

津軽海峡ブランド博 開催迫る

第二問屋町にある青森産業会館で11月22日(金)から24日(日)、『津軽海峡ブランド博』が開催される。

津軽海峡は江戸時代以前から北前船の主要交通路として繁栄し、現在も重要な国際海峡の一つとして認識されている。平成27年の北海道新幹線開業で本州と北海道が完全に一つのルートとなる今、津軽海峡を挟んだ青函の相互交流に努め、その連携による相乗効果を高めることを目的として開催されるのが『津軽海峡ブランド博』である。

組合員訪問

今回は、8月に社長に就任したばかりの、株式会社いしおか石岡晃一社長にお話を伺った。

同社は対面式の精肉店として、昭和22年青森市新町に石岡社長の祖父が開業。石岡社長は3代目にあたる。当時はおいしいコロッケを売るお店として市民に親しまれる「街のお肉屋さん」だった。

その後、先代社長時代の昭和60年、完成直後の第二問屋町に本社を移転し、6年後の牛肉輸入自由化による影響を見越し、小売業から卸売業に進出した。

現在は、国産・輸入肉から

化を目的に、地域産業の掘り起こしを行い、情報交換の場を提供し、ネットワーク化による基盤強化や、販路拡大のチャンスを提供する。



津軽海峡ブランド博 ロゴマーク

22日から開催されるブランド博では、「温故知新コーナー」「お宝発掘コーナー」「希少生産コーナー」「季節限定コーナー」を設け、地場の名産品から開発されたばかりの

新商品などを紹介。「温故知新コーナー」で紹介するのは、山菜加工品や燻製製品など古くから存在するが一般には知られていない商品。



青森産業会館での展示即売会(イメージ写真)

「お宝発掘コーナー」では、プロテオグリカン関連製品など、新商品や試作品、研究プロジェクト等を紹介。「希少生産コーナー」では上磯もずく、いのしし肉などの大量供給できない隠れた逸品を、「季節限定コーナー」では通年は提供できない旬のモノを展示即売する。

食肉加工品まで食肉全般を取扱い、石岡社長の下、従業員58名が県内各地のお客様の下へ、安全・安心でおいしいお肉を届けたい。



いしおか 代表取締役社長

石岡 晃一氏

「当社の取引先は現在千件程あり、1日に2百〜3百件を県内全域に配達しています。大手メーカーが流通の大動脈だとしてたら、当社は毛細血管ですね。県内の隅々まで配達します」と語った。

自社のアピールポイントについては「当社は、青森県産素材にこだわった商品を開発しております。現在主力商品は10品程あり、なかでも「八甲田牛メンチカツ」は青森県物産振興協会

会長賞など数々の賞を受賞し、催事では即完売の人気商品です。卸センターニュースをご覧の皆さんにもぜひ召し上がっていただきたい一押し商品です。当社は、これからも地域に根ざした商売を続け、県産品を全国に発信することで、青森の経済に貢献していきたいです」と熱く語った。

社長に就任しての抱負を伺うと「社長に就任して社員の生活の重みを実感するようになり、社員一人一人に幸せになってもらいたいと考えようになりました。そのためにも、社員共々頑張るって県産肉の普及に努めていきたいです」と意気込ん

編集後記

今年の公共施設視察会は今、元気を発信しつつある弘前に行ってきました。駅前の再生をかけた開業したばかりの「ヒロロ」と「土手町コミュニティパーク」です。ヒロロは倒産したジョッパルの後継ですが、想像以上にユッタリした魅力的な商業施設に変貌していました。土手町コミュニティパークはFMアップルウェーブを核とした施設ですが、弘前経済人の心意気を感じました。▼下土手町商店街の空き店舗ゼロ作戦やランチタイム駐車場無料化策などの取組も中心街の活性化策として大変有効だと思いましたが、両施設に共通していたことは、新しい試みを、多分に抵抗・反対もあつたと想像しますが、それを乗り越える突破力があったのではという事です。▼転話題。先般青森経済同友会で日本政策金融公庫の「農業の6次産業化について」の講演があり、有意義でしたので、その内容の一部をご紹介します。▼「農業の6次産業化」とは「1次産業×2次産業×3次産業」だとされてますが、今回「従来のように生産物を市場経由で販売するだけではなく、消費者への直接販売や加工により付加価値をつけて販売する等により、経営の利益・所得向上を目指す取組み」とする同公庫の定義付けにより分かりました。▼6次産業化の他に農業を起点としたビジネスには①他産業からの農業への参入②農商工連携による新商品やサービス③生産・加工・販売の業務提携などがあるそうです。(この項続く) (藤本)



八甲田の大百然で育った・・・ヘルシーな赤身が魅力の八甲田牛。ジューシーな肉汁が口の中いっぱいひろがります。平成24年度 青森県ふるさと食品コンクール 青森県推奨観光土産品審査会 青森県物産振興協会会長賞 受賞! 『青森県産八甲田牛メンチカツ』 いしおか 食肉総合卸

〒030-0113 青森県青森市第二問屋町三丁目5番25号 TEL 017-739-8129 FAX 017-739-4441 http://www.isioka.co.jp